

条例の原則とまちづくり事例

1 札幌駅前通地下歩行空間

平成15年11月14、15日

ワークショップでは、さまざまな意見をお互いに尊重しながら、みんなで議論を行いました。

冬期間の通行に便利だね

費用が掛かりすぎるのでは

市民参加

政策決定に至る過程に市民が直接参加

平成15年10月

広報さっぽろを見て、地下歩行空間の整備にあたり、市民1000人ワークショップで議論することを知ったAさん。

行ってみようかな

情報共有

市民の皆さんと市役所が話し合いながら、施策の判断を行いました。議論で出された多くの意見は、今後のまちづくりのヒントにすることができました。

みんなで課題について話し合い、自分たちのまちのことは自分たちで決めていく。それが、市民自治なんだね

完成が楽しみ!

地下歩行空間:平成22年度の完成を目指しています

信託と責任

市議会での議論

いろいろな意見が集まったんだ

市民1000人ワークショップ

フォーラム

都心の事業者や市民団体が中心となったフォーラムなども開催。寄せられた意見やワークショップの結果に基づき検討し、市議会でも議論を重ねました。

平成15年11月

そのため、広報さっぽろの特集で現状や問題点などを分かりやすく紹介しました。

情報共有

高齢化により対象者が増え、制度を維持するための費用が大幅に増加。制度を維持するのが難しくなってきました。

費用が増加してタイヘン

何かいい方法は…

どうしたらいいかな

市役所

市職員

費用と高齢者数

寄せられた意見を基に検討し、市議会でも議論を重ね、新制度の内容を決定。平成17年度から、5万円を上限とした有料のカード方式へ変更になりました。

信託と責任

敬老パス

新しい制度になったのね

広報誌を読むなど、市政に関心を持つことも市民自治への第一歩だね

敬老パス

市職員

市民参加

老人クラブへの説明会や町内会に出前講座を行うなど、敬老バス制度の現状を分かりやすく説明しました。さらに、市民討論会や市民5,000人アンケートを行うなど、さまざまな参加の場を設置。市民の皆さんからは多くの意見が出されました。

2 敬老バス